



Focus on !! 大学院に英語授業は必要？ 必要ない？

研究高度化・グローバル化特別対策室（通称：研グロ）では、研究の高度化・グローバル化に向けた様々な活動を行っておりますが、英語授業の実施が、次の大きな課題の1つと受け止めています。英語授業の実施は、学士課程では喫緊の課題ではないですが、修士課程から優秀な留学生を獲得し、博士課程への進学に繋げる目的では、大学院における英語授業の実施は極めて有効な方策の1つと考えています。本報のFocus onでは、工学部教員を対象に平成26年10月に実施しました英語授業に関するアンケートをとりあげ、工学部教員が英語授業についてどのように考えているかをご紹介します。質問内容は、大学院において英語授業が必要かどうか、英語授業をどのような形で実施可能か、実施するにあたって必要な支援策は何かの3点です。

★英語授業に関するアンケート結果

工学部教員122名のうち、全体の約55%の67名から回答を頂きました。准教授・講師で回答者のほぼ半数を占め、特に若い世代で英語授業への関心の高さが伺えました。

★質問①：英語授業は必要？

英語授業は、工学部・工学研究科で組織的に取り組むべき問題かどうかお聞きしました（図1）。回答者の72%の教員が組織的に取り組むべき課題と認識している一方、組織的に取り組む必要はない・必要ないと考える教員は14%でした。

★質問②：英語授業はどのような形で実施可能？

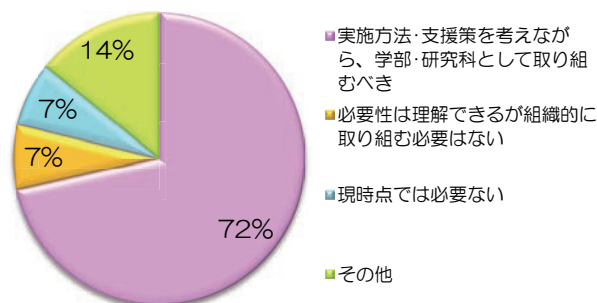
主に現在の大学院の担当科目でどのような形で実施可能かお聞きしました（図2）。「現在の授業の内容の一部を英語で実施できる」との回答が全体の46%で一番多く、次いで、「授業は日本語だが資料を英語化することで留学生の受け入れ可能」との回答が24%、「15回全部そのまま英語で実施できる」との回答が14%でした。授業を全部もしくは一部、英語で実施できると回答した割合は全体の6割に達しました。

★質問③：英語授業を実施するにあたり支援は必要？

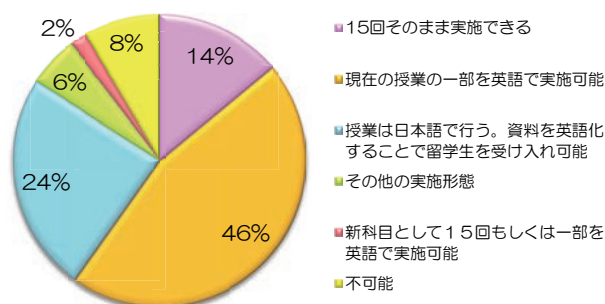
英語授業を実施する際にどのような支援を工学部に期待するかお聞きしました（図3）。英語資料作成や英語授業の訓練など、授業の準備に関する支援策を希望する割合が全体の6割弱で、その中でも、専門業者による英語授業の訓練を希望する割合が一番高いことが分かりました。一方、教員評価ポイントや研究費支援など、対価を希望する割合も25%と高く、特に質問②で「15回全部そのまま英語で実施できる」と回答した教員において、対価を希望する傾向が強いことが分かりました。

今回のアンケートで、工学部教員の多くが英語授業の実施に前向きに捉えていることが分かりました。しかし、一口に英語授業といっても、受講対象、受講科目や教授方法など、実施に関して様々な意見があります。取り組む可否かを踏まえ、真摯に向き合うべき課題であることを再認識しました。なお、より詳細な分析結果は、研グロHPで公開予定です。是非ご覧下さい。

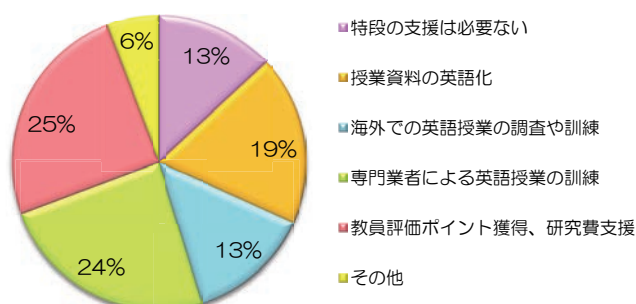
（図1）英語授業の必要性に対する回答結果



（図2）英語授業の実施形態に対する回答結果



（図3）英語授業実施の際の支援策に対する回答結果



★平成26年度に工学部を訪問された海外の方々

研グロでは、海外大学との研究交流および学生間交流を活発化するため、様々な招聘事業を通して工学部を訪問された海外の教職員の方々に、国際交流フォーラム「銀河レクチャー」で自身の大学の紹介をして頂いております。平成26年度は海外9ヶ国・計12名の先生方に銀河レクチャーでご講演を頂き、平成24年度から始まった銀河レクチャーも今年3月で既に第20回を迎えました。教職員だけでなく、多くの海外大学生・大学院生も訪問されました。今年度の季刊報のまとめとして、特に研グロを訪問された海外の先生および学生の方々をご紹介します。

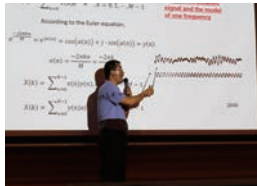
●モンゴル・モンゴル国立大学



平成26年12月10日
Erdenebat 先生



平成26年8月7日
Enkhsaruul 先生

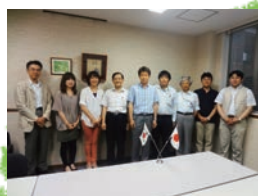


●中国・大連理工大学
平成26年9月9日
Fengyu Cong 先生

●韓国・ハンバット大 平成26年7月14日 李 忠坤 先生

★銀河レクチャーでご講演された海外の先生方

※詳しくは工学部HPのニュース欄をご覧ください



●カナダ・サスカチュワン大学
平成26年6月5日
Daniel Chen 先生



●ドイツ・マインツ大学
平成26年12月18日
齋藤武彦 先生



●フランス・パリ第6大学
平成26年11月19日
Henri Groult 先生



●インド・ラニチャンナマ大学
平成27年3月5日
Jayappa Manjanna 先生



●タイ・キングモンクット工科大学
平成26年5月15日
Prathan Buranasiri 先生



●マレーシア・マレーシア国民大学
平成26年9月30日
Wan Aizon 先生

- : 大学間協定締結校
- : 工学部との部局間協定締結校
- : その他

★韓国・群山大学の教職員の方々



平成27年3月4日～3月5日に韓国・群山大学から国際交流教育院長を始めとする3名の教職員が来学しました。交流協定を締結している人文社会学部の訪問に合わせ、工学部も訪問されました。

★韓国・ハンバット大学の教職員と学生の方々



平成27年1月13日～1月16日の日程で、韓国・ハンバット大学から、教職員3名、学生6名が来学しました。主に、応用化学・生命工学科の教職員や学生と交流を深めました。

★さくらサイエンスプランで来学されたアジアの大学生・大学院生の方々



平成26年8月4日～8月11日の日程で、アジア5ヶ国（中国、モンゴル、韓国、タイ、マレーシア）の大学生・大学院生合計14名が本学学生と科学技術分野で交流を行うため来学しました。（詳しくは季刊報創刊号の特集記事をご覧ください）

掲示板

★平成27年度も海外学生の招聘と岩大生の海外派遣を多数予定しています!!

科学技術振興機構（JST）による平成27年度「さくらサイエンスプラン」事業に申請しました。アジア諸国（中国、モンゴル、タイなど）の大学生・大学院生を本学に招き、岩大生と研究分野で学生交流を行う計画です。是非、交流を深めて下さい。

また、平成27年度も韓国・ハンバット大学の短期研修派遣学生、カナダ・サスカチュワン大学の研究インターンシップ生を募集予定です。詳細は、工学部掲示板等でお知らせします。

★グローバル化へ向け、広報活動を更に活発化させます!!

海外大学との研究交流を広げるため、工学部研究者総覧の英語版冊子を作成しました。海外から教職員・学生が来学する際、海外にお出かけの際など、気軽にご活用下さい。冊子のご希望は研グロ事務局の井上・齋藤（内線6405）まで。

編集後記

今回の英語授業の特集では、普段は聞けない声がまとめられていて興味深い結果だと感じました。岩手大学でも英語で授業を受ける環境が整い、現状よりも留学生が増えていけば、キャンパス内の至る所で、日本人学生と留学生が語り合い刺激し合う姿が見られるようになるかもしれませんね。（齋藤）

編集局：

工学部研グロ 小林（悟）、井上、齋藤
Email: kenguro@iwate-u.ac.jp
TEL: 019-621-6405